

# 男女共同参画に関する 市民意識調査

— 概要版 —

平成 29 年1月



霧島市

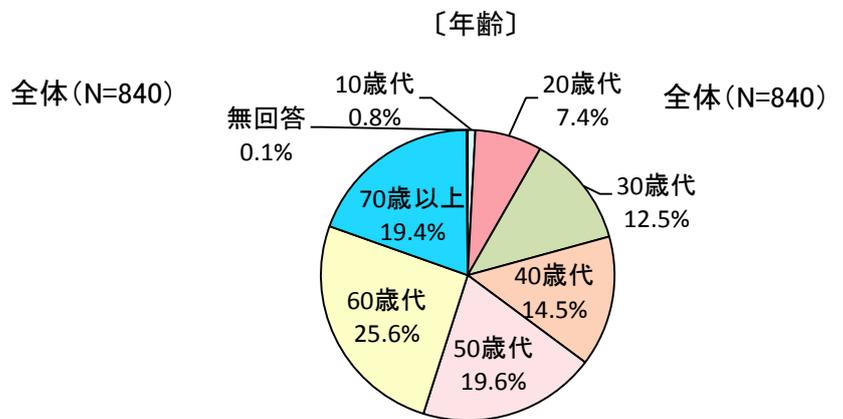
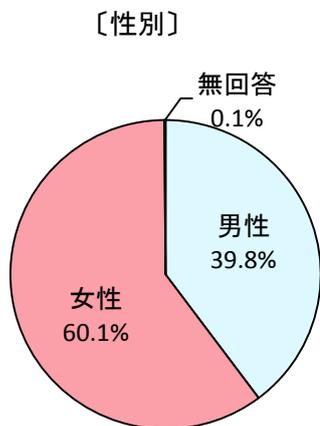
## 目 次

◎ 男女平等意識について.....	- 1 -
◎ 家庭生活について.....	- 4 -
◎ 社会活動・地域活動について.....	- 6 -
◎ 就労について .....	- 7 -
◎ 教育について .....	- 9 -
◎ 女性の政策参画について.....	- 9 -
◎ 人権・暴力について.....	- 10 -
◎ 男女共同参画に関する用語について.....	- 12 -
◎ 行政について .....	- 13 -

### <調査の概要>

調査地域	霧島市全域
調査対象	18歳以上の男女 2,100人
抽出方法	霧島市住民基本台帳から無作為抽出
調査期間	平成28年7月29日（金）～平成28年8月31日（水）
調査方法	調査票による本人記入方式（郵送配布・郵送回収による郵送調査法）
回収数（率）	840人（40.0%）

- 集計は、百分比の少数点以下第2位は四捨五入しています。したがって、回答比率合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- 2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合があります。
- 文中の選択肢の表記は「        」で行なっています。

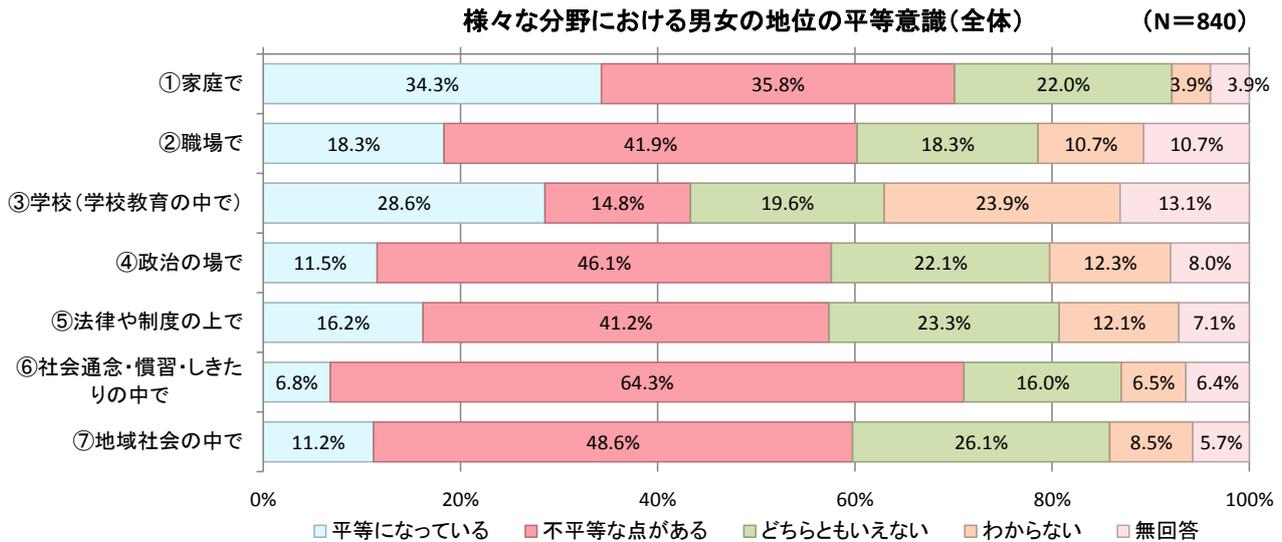


## ◎男女平等意識について

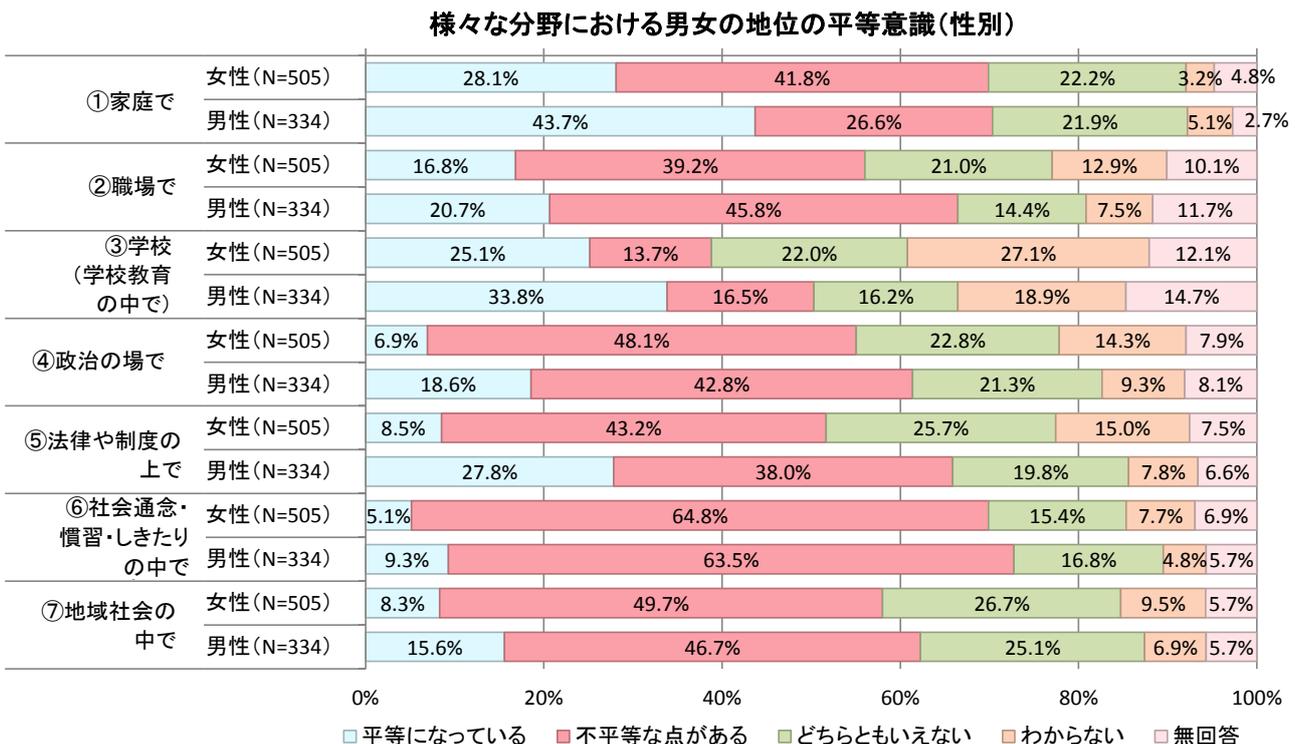
### ■ 様々な分野における男女の地位の平等意識

#### ～「社会通念や慣習、しきたりの中で」不平等感が強い～

様々な分野における男女の地位の平等意識についてみると、全体では「平等になっている」が「不平等な点がある」を上回っているのは「③学校(学校教育の中で)」のみで、それ以外の項目では「不平等な点がある」が「平等になっている」を上回っています。特に「⑥社会通念・慣習・しきたりの中で」(平等になっている：6.8%、不平等な点がある：64.3%)で差が大きくなっています。



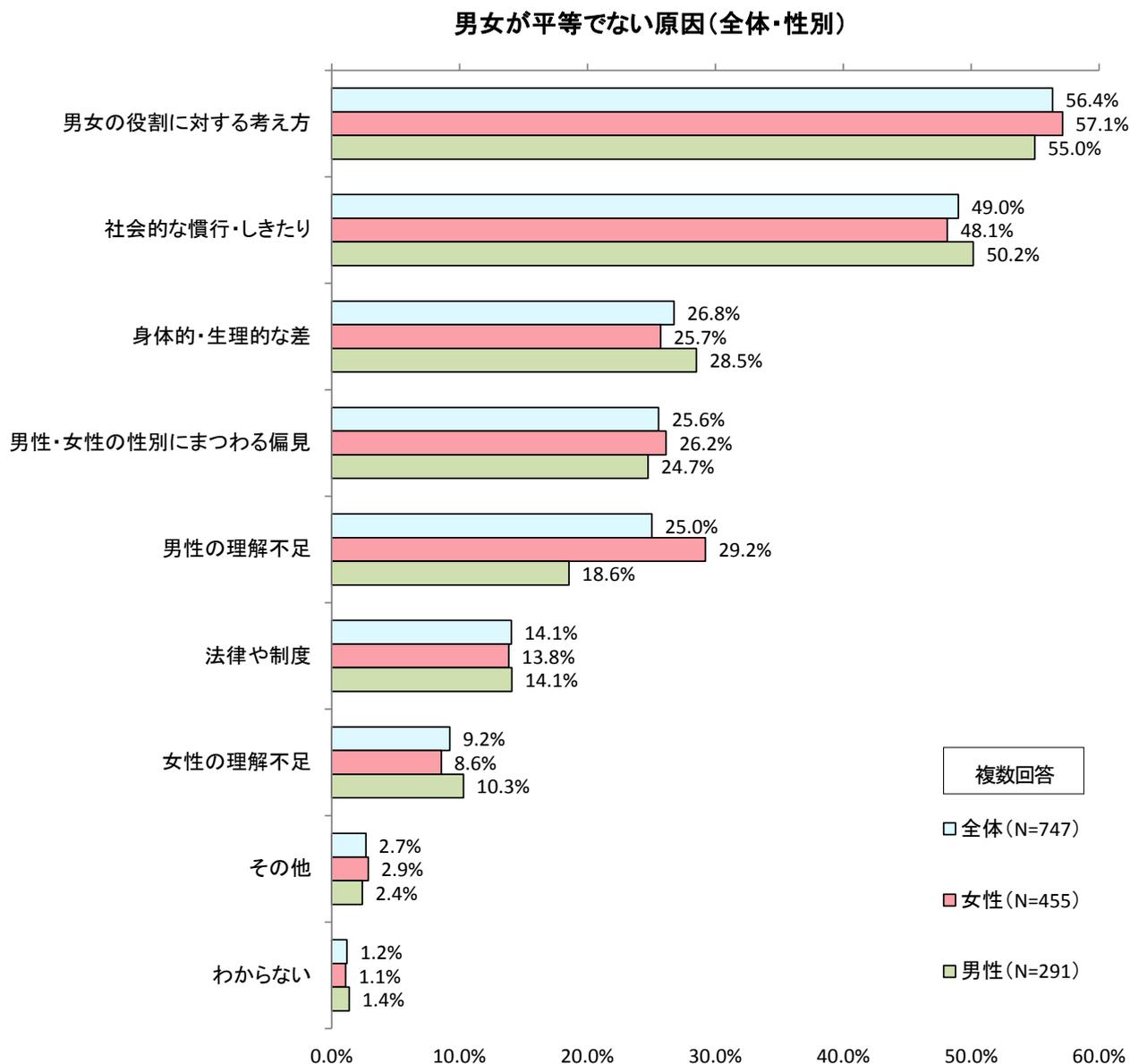
性別にみると、すべての項目において「平等になっている」の割合は男性が女性より高く、「不平等な点がある」の割合は女性が男性より高くなっています。



## ■ 男女が平等でない原因

～「男女の役割に対する考え方」「社会的な慣行・しきたり」が原因と考える人が多い～

男女が平等でない原因についてみると、全体では「男女の役割に対する考え方」(56.4%)が最も高く、次いで「社会的な慣行・しきたり」(49.0%)、「身体的・生理的な差」(26.8%)となっています。  
性別にみると、「男性の理解不足」(女性：29.2%、男性：18.6%)で女性の割合が男性より高く、「身体的・生理的な差」(女性：25.7%、男性：28.5%)で男性の割合が女性より高くなっています。



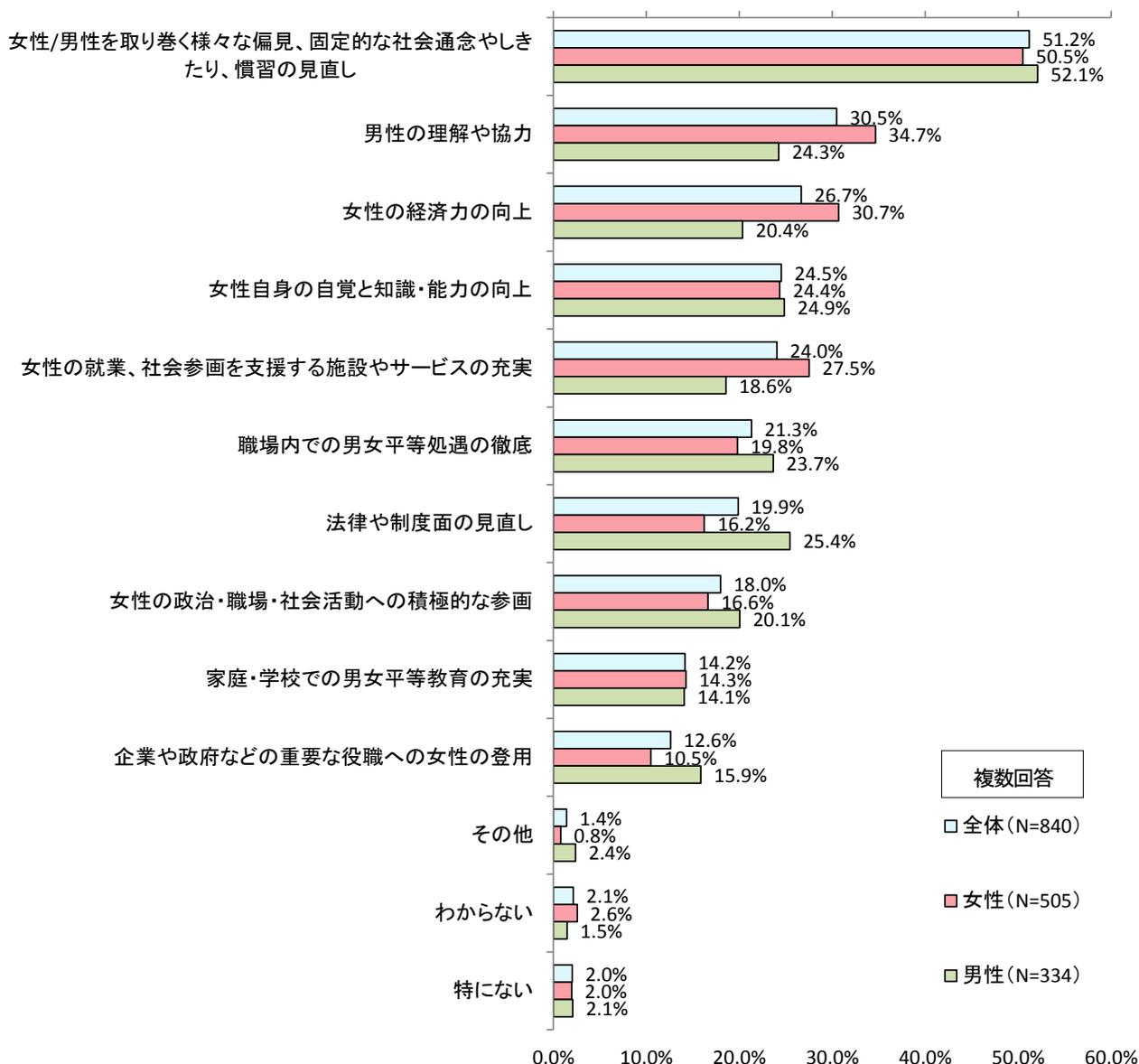
## ■ 男女が平等になるために重要なこと

### ～女性や男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直しが必要～

男女が平等になるために重要なことについてみると、全体では「女性／男性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念やしきたり、慣習の見直し」(51.2%)の割合が最も高く、次いで「男性の理解や協力」(30.5%)、「女性の経済力の向上」(26.7%)となっています。

性別にみると、「女性の経済力の向上」(女性：30.7%、男性：20.4%)、「男性の理解や協力」(女性：34.7%、男性：24.3%)、「女性の就業、社会参画を支援する施設やサービスの充実」(女性：27.5%、男性：18.6%)で女性の割合が男性より高く、「法律や制度面の見直し」(女性：16.2%、男性25.4%)、「企業や政府などの重要な役職への女性の登用」(女性：10.5%、男性：15.9%)で男性の割合が女性より高くなっています。

男女が平等になるために重要なこと(全体・性別)



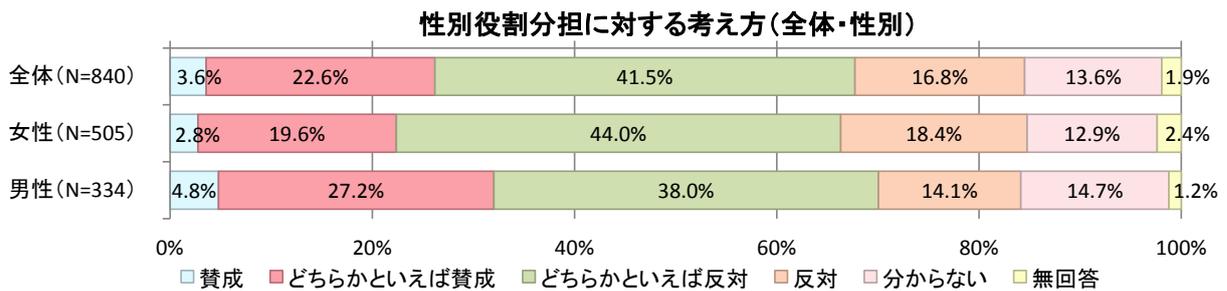
## ◎家庭生活について

### ■ 性別役割分担に対する考え方

～『反対』が『賛成』を上回る～

「男性は仕事、女性は家庭」という性別役割分担に対する考え方についてみると、全体では『賛成』（『賛成』 + 「どちらかといえば賛成」）が26.2%、『反対』（『反対』 + 「どちらかといえば反対」）が58.3%となっており、『反対』が『賛成』を上回っています。

性別にみると、『賛成』（女性：22.4%、男性：32.0%）の割合は男性が女性より高く、『反対』（女性：62.4%、男性：52.1%）の割合は女性が男性より高くなっています。

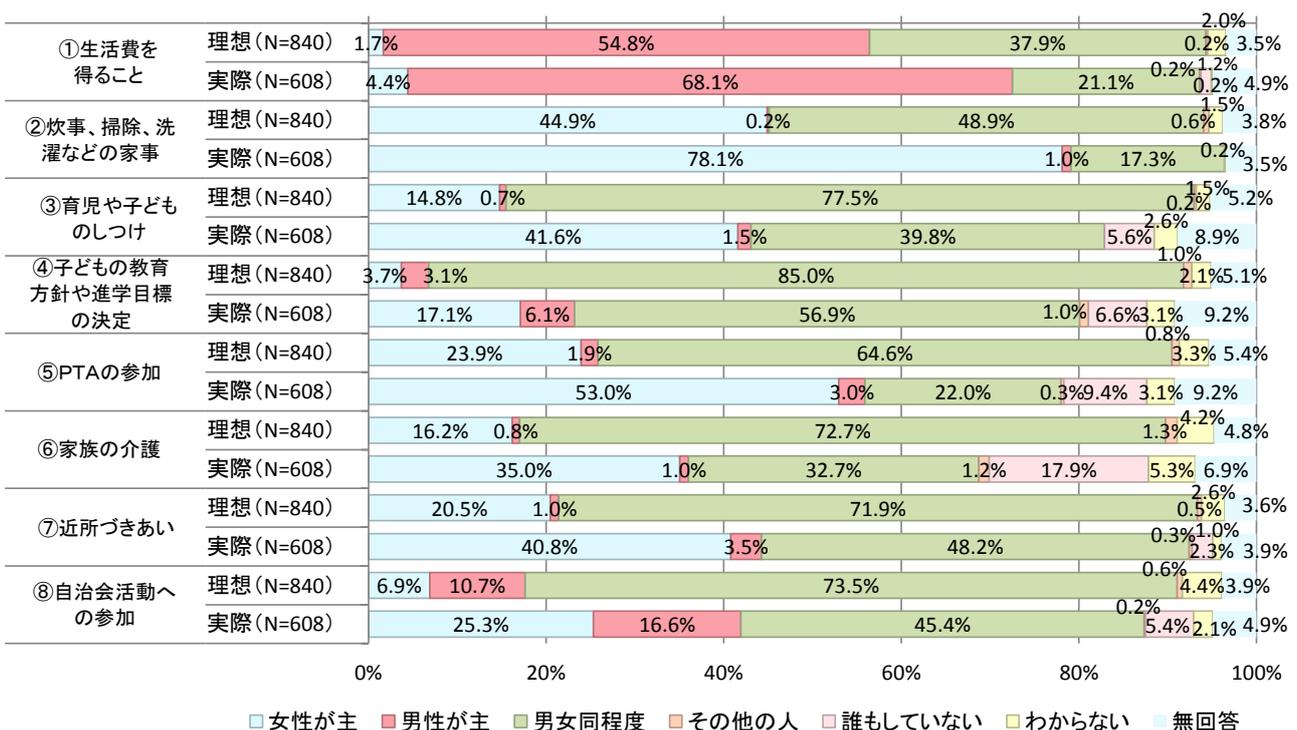


### ■ 日常生活における役割分担の理想と実際

～理想は「男女同程度」が多いが、実際に多くを担っているのは女性～

日常生活における役割分担についてみると、理想では「生活費を得ること」と「炊事、掃除、洗濯などの家事」を除いて「男女同程度」が6割を上回っています。実際では「生活費を得ること」の「男性が主」（68.1%）、「子どもの教育方針や進学目標の決定」の「男女同程度」（56.9%）、「近所づきあい」の「男女同程度」（48.2%）、「自治会活動への参加」の「男女同程度」（45.4%）を除いて、「女性が主」の割合が高くなっています。

日常生活における役割分担の理想と実際(全体)

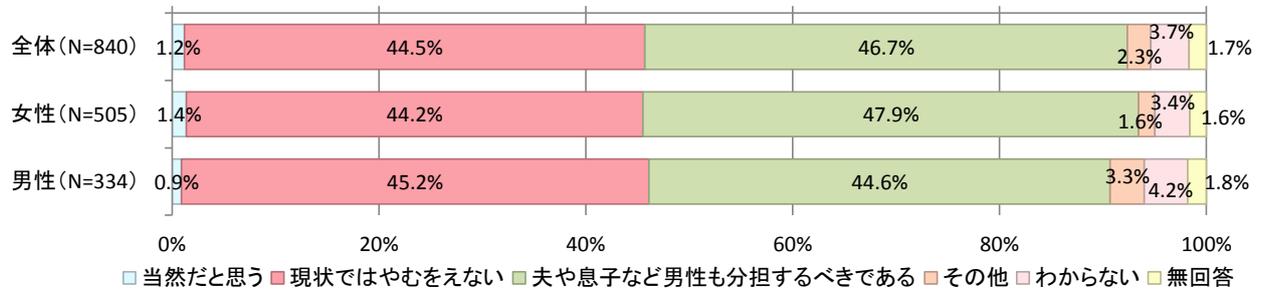


## ■ 家庭で高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考え

～男女ともに分担すべきと考える人が4割を超える～

家庭で高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考えについてみると、全体では「夫や息子など男性も分担するべきである」(46.7%)の割合が最も高く、次いで「現状ではやむをえない」(44.5%)となっています。

家庭で高齢者介護を女性が多く担っていることに対する考え(全体・性別)



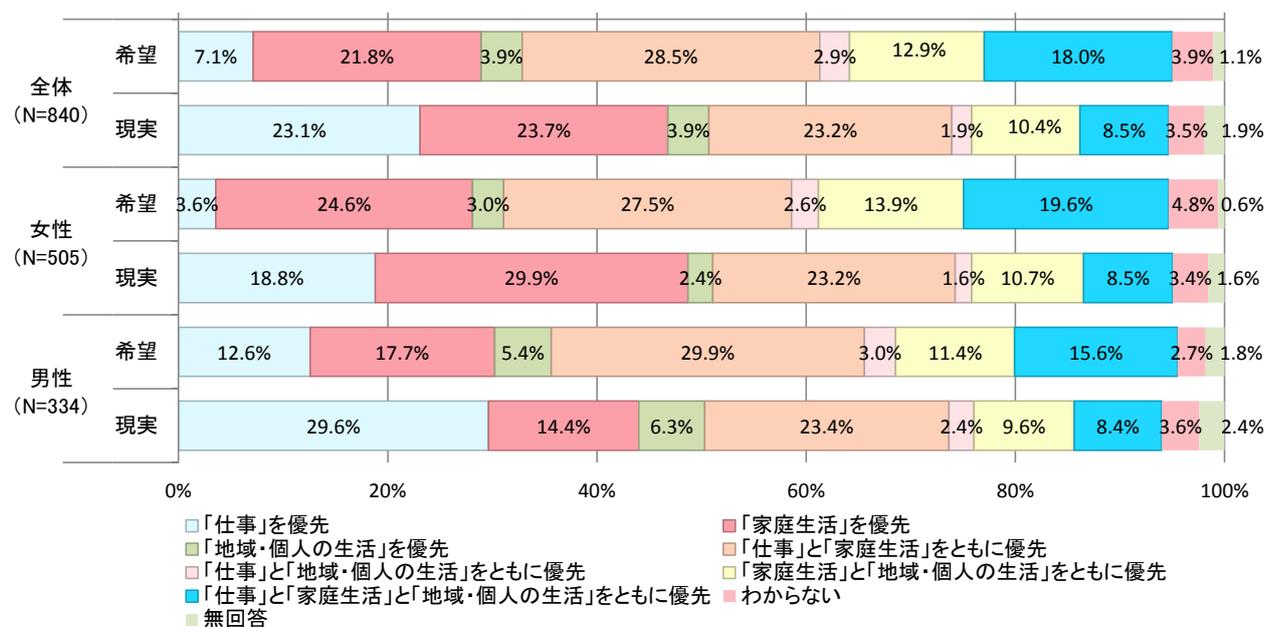
## ■ 「仕事」「家庭生活」「地域・個人生活」の関わり方の希望と現実

～仕事と家庭生活をともに優先したいが、現実では女性は「家庭生活」、男性は「仕事」を優先～

「仕事」「家庭生活」「地域・個人生活」の優先度の希望と現実についてみると、全体では「「仕事」を優先」の割合は希望(7.1%)に対して現実(23.1%)が高くなっています。一方、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」(希望:28.5%、現実:23.2%)、「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」とともに優先」(希望:18.0%、現実:8.5%)では希望に対して現実は低くなっています。

性別にみると、「家庭生活」を優先については、女性は希望(24.6%)より現実(29.9%)が高く、男性は希望(17.7%)より現実(14.4%)が低くなっています。

「仕事」「家庭生活」「地域・個人生活」の関わり方(希望と現実)(全体・性別)



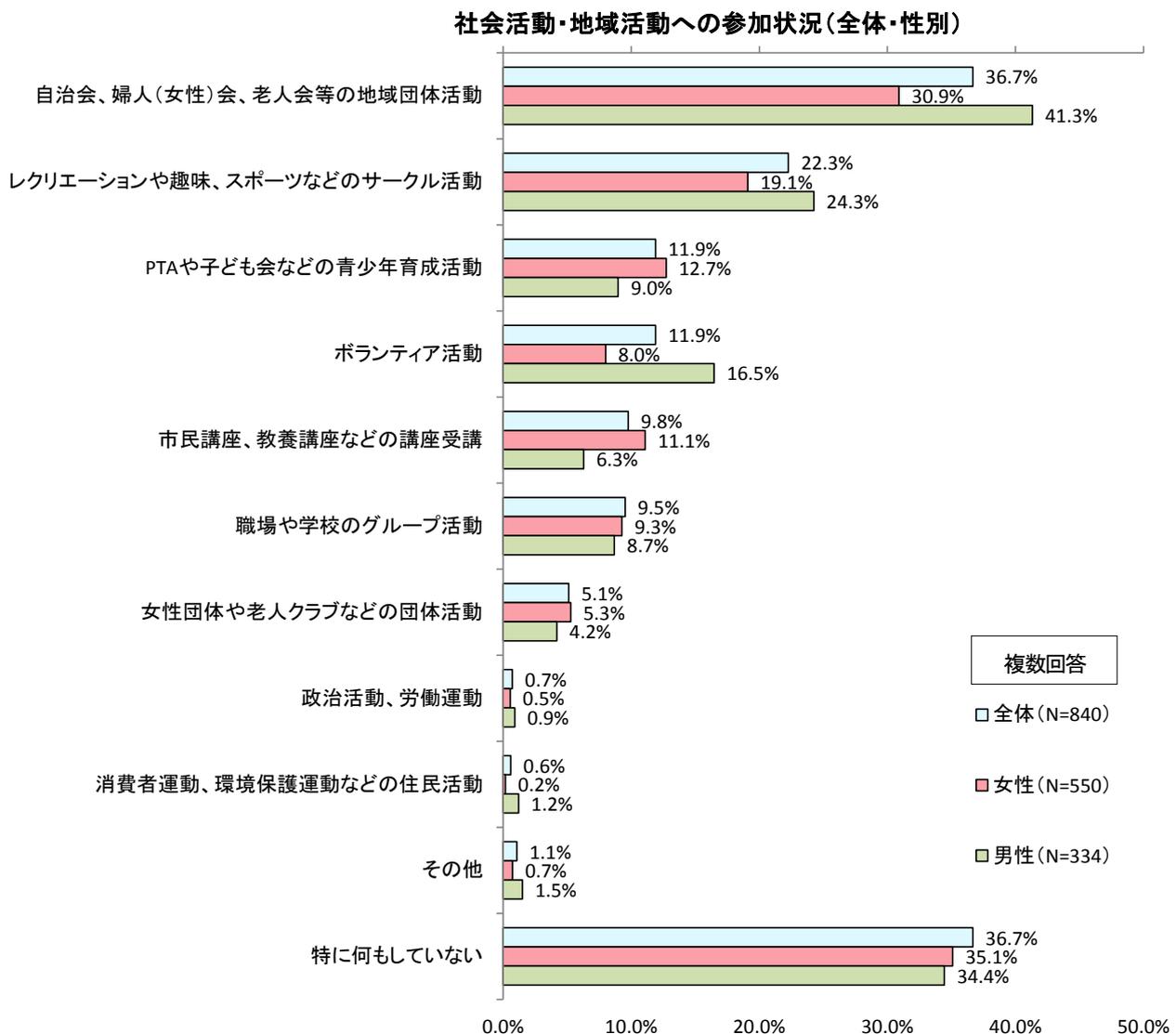
## ◎社会活動・地域活動について

### ■ 社会活動・地域活動への参加状況

#### ～最も参加が多いのは自治会、婦人、老人会等の地域団体活動～

社会活動・地域活動への参加状況についてみると、全体では、「自治会、婦人（女性）会、老人会等の地域団体活動」、「特になにもしていない」（36.7%）の割合が同等で最も高く、次いで「レクリエーションや趣味、スポーツなどのサークル活動」（22.3%）となっています。

性別にみると、「PTAや子ども会などの団体活動」（女性：12.7%、男性：9.0%）、「市民講座、教養講座などの講座受講」（女性：11.1%、男性：6.3%）で女性の割合が男性より高く、「自治会、婦人（女性）会、老人会等の地域団体活動」（女性：30.9%、男性：41.3%）、「レクリエーションや趣味、スポーツなどのサークル活動」（女性：19.1%、男性：24.3%）、「ボランティア活動」（女性：8.0%、男性：16.5%）で男性の割合が女性より高くなっています。



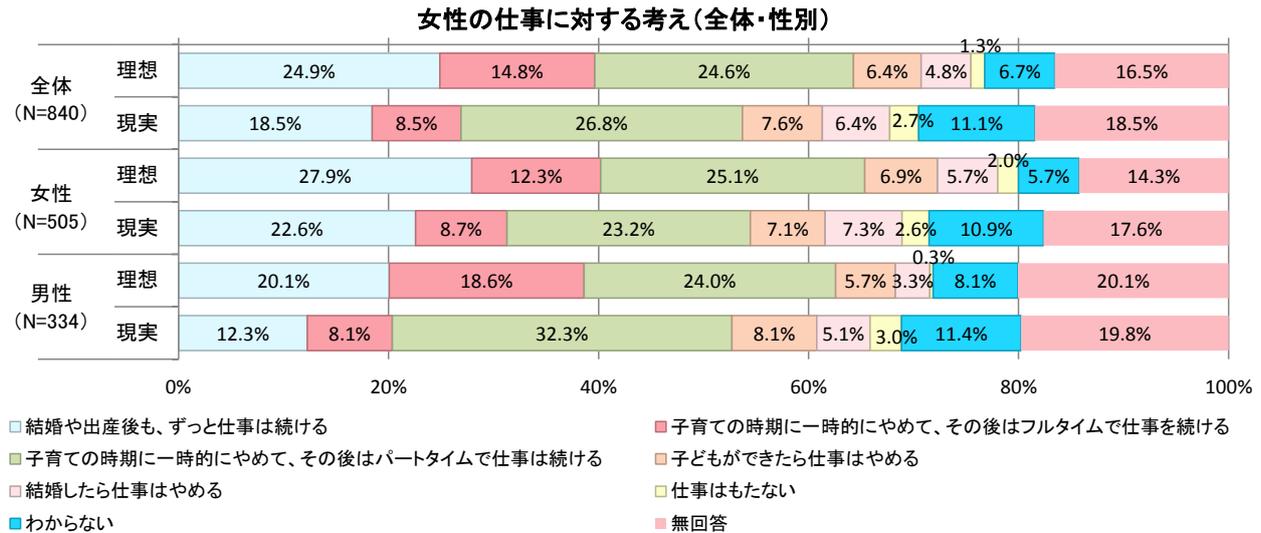
## ◎就労について

### ■ (結婚、出産を踏まえた) 女性の仕事に対する考え

#### ～女性が仕事を続けることには6割が肯定的～

女性の仕事に対する考えについてみると、全体では、「結婚や出産後も、ずっと仕事は続ける」の割合は理想(24.9%)に対して現実(18.5%)が低くなっています。

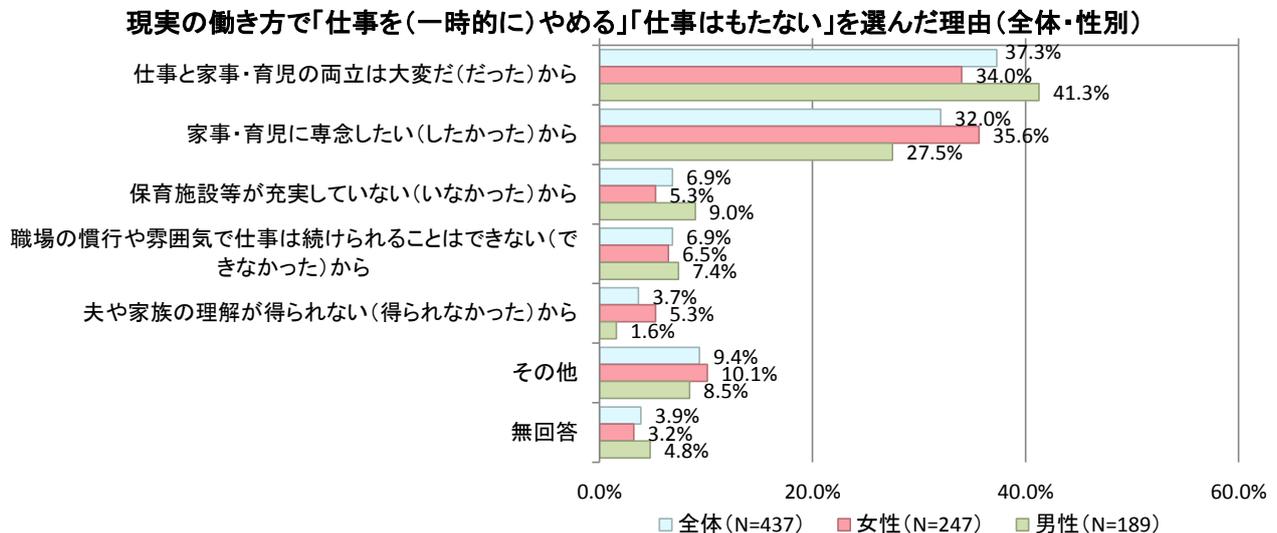
性別にみると、「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」については、女性は理想(25.1%)より現実(23.2%)が低く、男性は理想(24.0%)より現実(32.3%)が高くなっています。



### ■ 現実の働き方で「仕事を(一時的に)やめる」「仕事はもたない」を選んだ理由

#### ～「仕事と家事・育児の両立は大変」「家事・育児に専念したい」が多い～

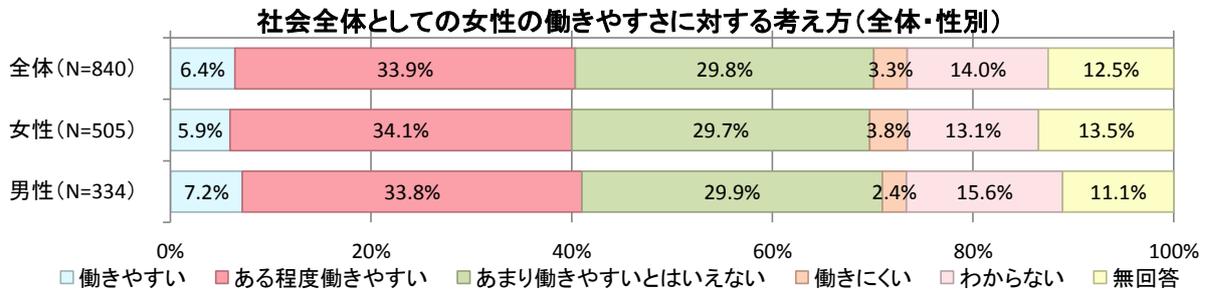
現実の働き方で「仕事を(一時的に)やめる」「仕事はもたない」を選んだ理由をみると、全体では「仕事と家事・育児の両立は大変だ(だった)から」(37.3%)が最も高く、次いで「家事・育児に専念したい(したかった)から」(32.0%)となっています。性別にみると、「家事・育児に専念した(したかった)から」(女性:35.6%、男性:27.5%)で女性の割合が男性より高く、「仕事と家事・育児の両立は大変だ(だった)から」(女性:34.0%、男性:41.3%)と男性の割合が女性より高くなっています。



## ■ 社会全体としての女性の働きやすさに対する考え

### ～『働きやすい』が4割～

社会全体としての女性の働きやすさに対する考えについてみると、全体では『働きやすい』（「働きやすい」＋「ある程度働きやすい」）が40.3%、『働きにくい』（「働きにくい」＋「あまり働きやすいとはいえない」）が33.1%で『働きやすい』と答えた割合が『働きにくい』答えた割合より高くなっています。

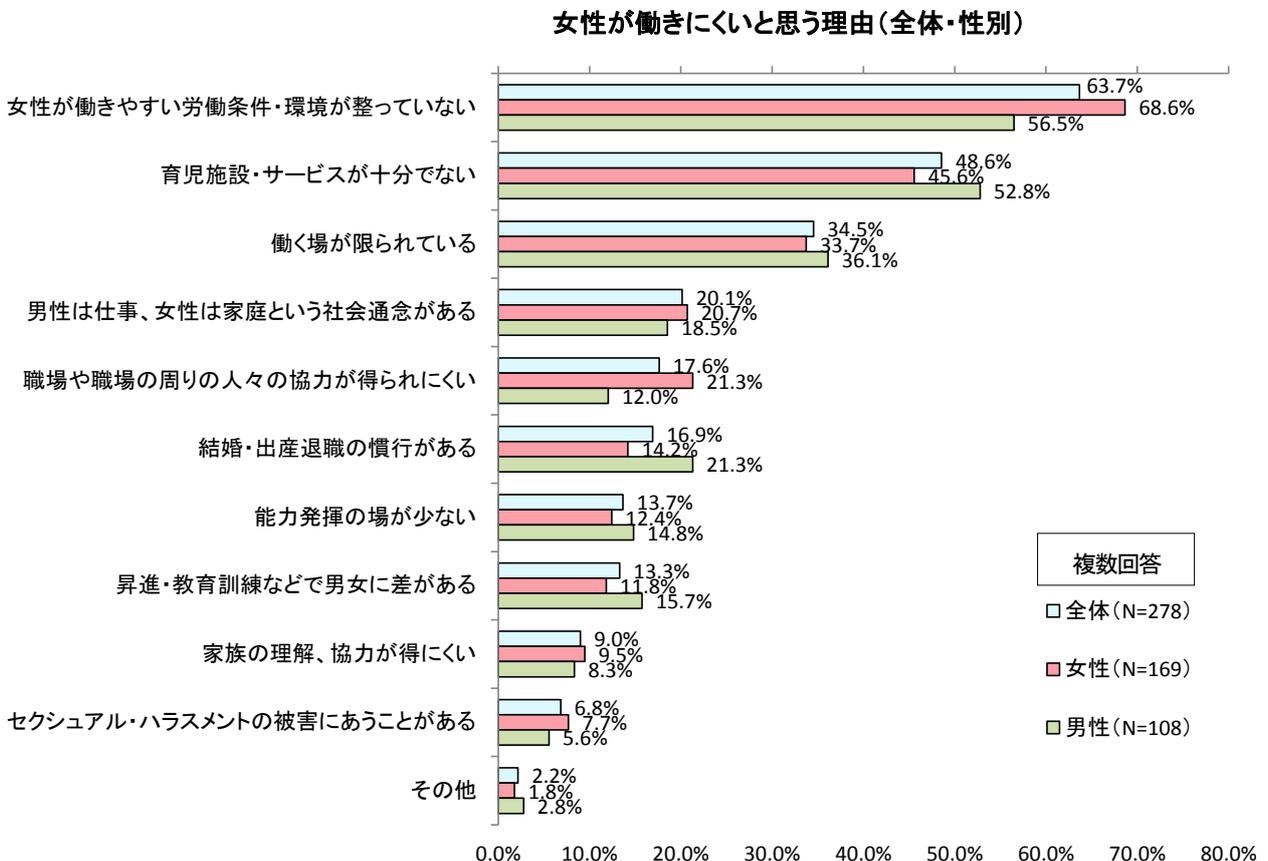


## ■ 女性が働きにくいと思う理由

### ～「労働条件・環境が整っていない」「育児施設・サービスが十分でない」との回答が多い～

女性が働きにくいと思う理由についてみると、全体では「女性が働きやすい労働条件・環境が整っていない」（63.7%）と最も高く、次いで「育児施設・サービスが十分でない」（48.6%）となっています。

性別にみると、「女性が働きやすい労働条件・環境が整っていない」（女性：68.6%、男性：56.5%）、「職場や職場の周りの人々の協力が得られにくい」（女性：21.3%、男性：12.0%）で女性の割合が男性より高くなっています。

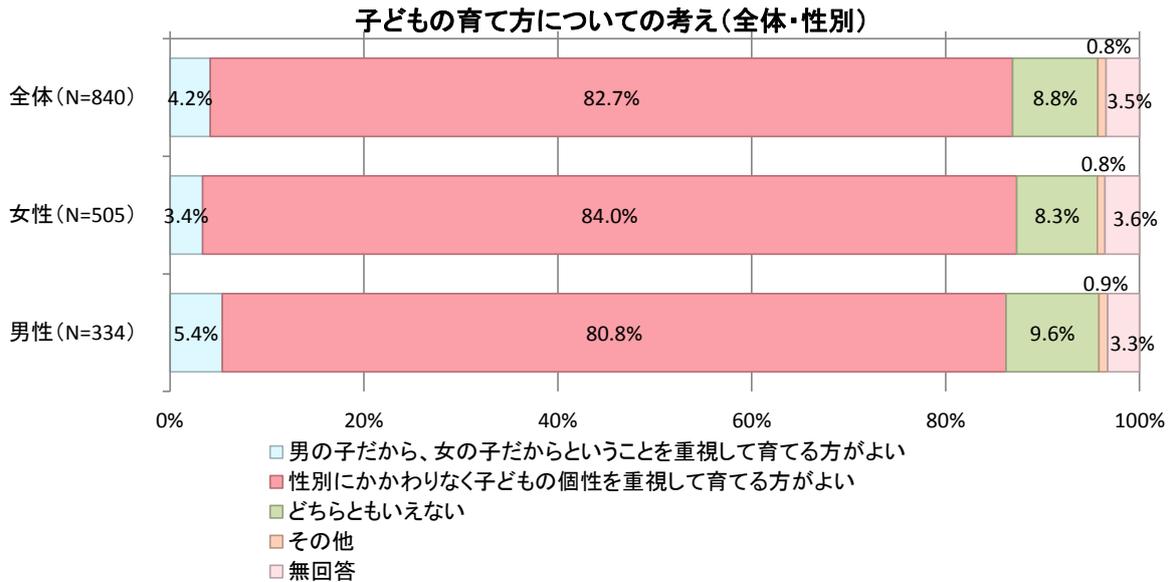


## ◎教育について

### ■ 子どもの育て方についての考え

～「性別にかかわらず子どもの個性を重視して育てる方がよい」と考える人は8割～

子どもの育て方についての考えについてみると、全体、男女ともに「性別にかかわらず子どもの個性を重視して育てる方がよい」が8割を超えています。

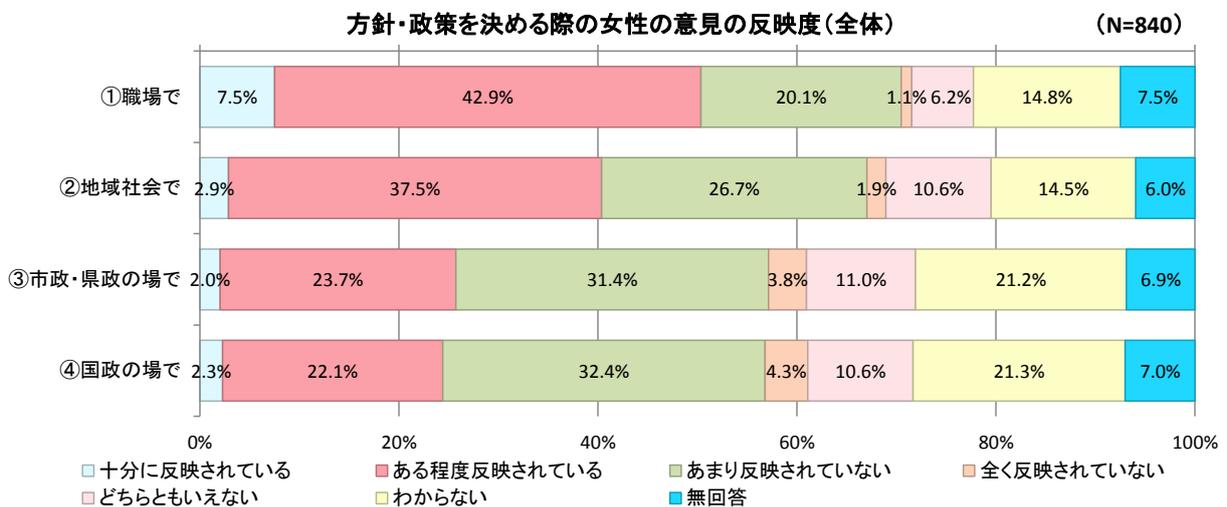


## ◎女性の政策参画について

### ■ 方針・政策を決める際の女性の意見の反映度

～職場・地域社会で意見の反映度が高く、政治の場では低い～

方針・政策を決める際の女性の意見の反映度についてみると、「③市政・県政の場で」「④国政の場で」において『反映されていない』（「あまり反映されていない」＋「全く反映されていない」）と答えた人の割合が『反映されている』（「十分に反映されている」＋「ある程度反映されている」）を上回っています。



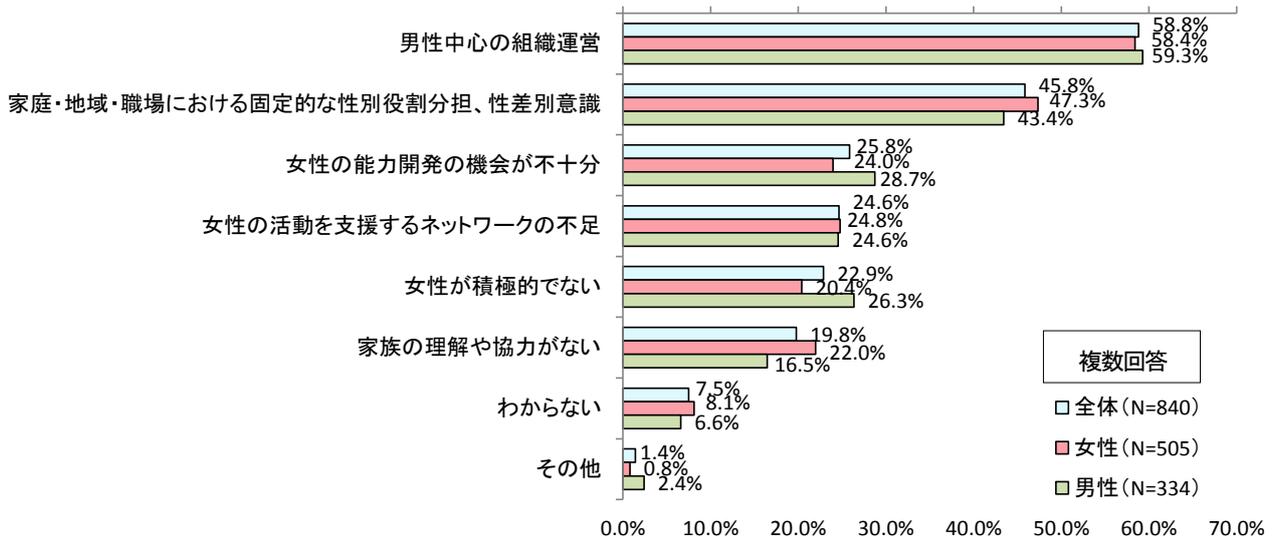
## ■ 政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由

### ～「男性中心の組織運営」と約6割が回答～

政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由についてみると、全体では「男性中心の組織運営」(58.8%)の割合が最も高く、次いで「家庭・地域・職場における固定的な性別役割分担、性差別意識」(45.8%)となっています。

性別にみると「家族の理解や協力がない」(女性：22.0%、男性：16.5%)で女性の割合が男性より高くなっています。

政策の企画や方針決定の過程に女性が進出していない理由(全体・性別)



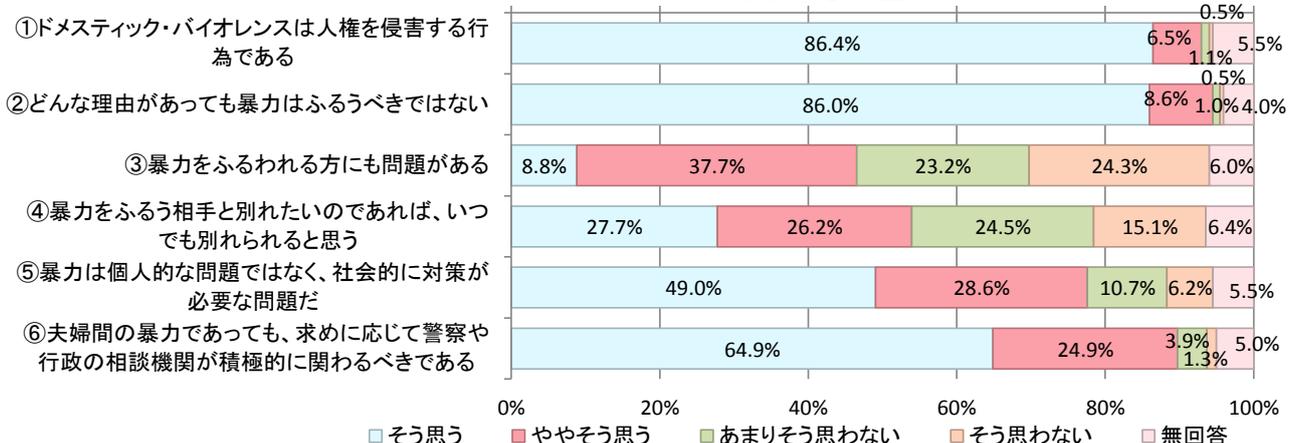
## ◎人権・暴力について

### ■ ドメスティック・バイオレンス(配偶者等からの暴力)に対する考え方

#### ～9割超の人が「どんな理由があっても暴力をふるうべきではない」と考えている～

ドメスティック・バイオレンス(DV)に対する考え方についてみると、全体では『そう思う』(「そう思う」+「ややそう思う」)の割合は「②どんな理由があっても暴力はふるうべきではない」(94.6%)が最も高く、次いで「①ドメスティック・バイオレンスは人権を侵害する行為である」(92.9%)、「⑥夫婦間の暴力であっても、求めに応じて警察や行政の機関が積極的に関わるべきである」(89.8%)となっています。一方、「③暴力をふるわれる方にも問題がある」という考え方には約5割(46.5%)の人が『そう思う』と答えています。

ドメスティック・バイオレンスに対する考え方(全体)

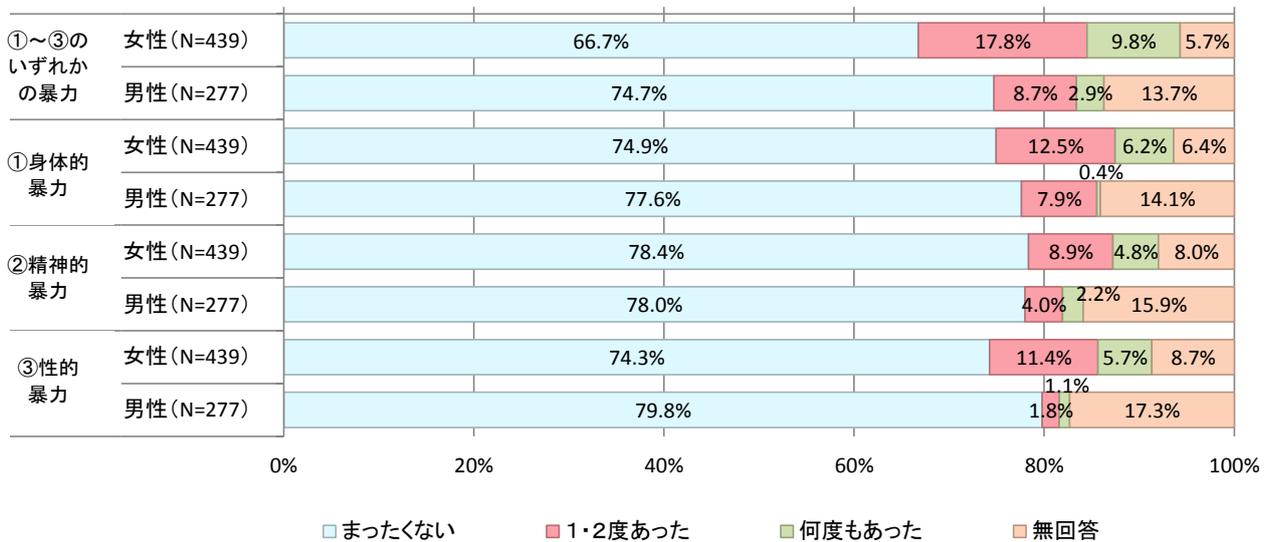


## ■ 配偶者等からのDVの被害経験の有無

～何らかの被害経験が『あった』と答えたのは女性の4人に1人、男性の9人に1人～

配偶者等からのDVの被害経験の有無についてみると、何らかの被害経験が『あった』（「1・2度あった」＋「何度もあった」）と答えた割合は女性が27.6%、男性が11.6%となっています。暴力の種類別にみると「①身体的暴力」（女性：18.7%、男性：8.3%）の割合が高く、いずれの種類暴力についても、女性の方が被害経験者の割合が高くなっています。

配偶者からの被害経験(暴力の種類別・性別)

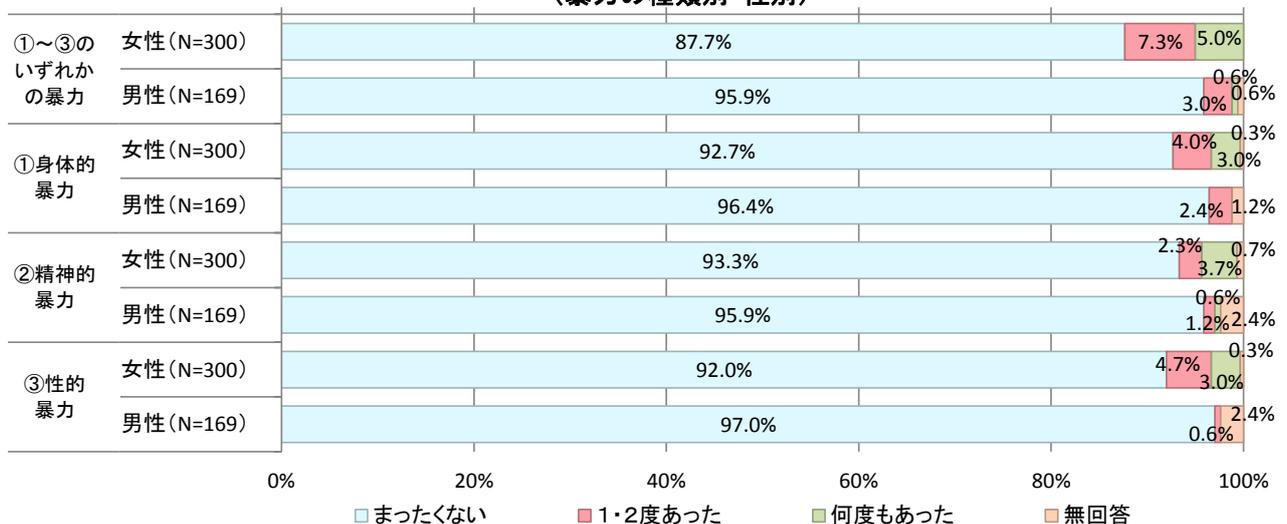


## ■ 10歳代から20歳代における交際相手からのDVの被害経験の有無

～何らかの被害経験が『あった』と答えたのは、女性の8人に1人～

10歳代から20歳代における交際相手からのDVの被害経験の有無についてみると、何らかの被害経験が『あった』と答えた割合は女性が12.3%、男性が3.6%となっています。暴力の種類別にみると、暴力の種類別にみると女性ではいずれも6～7%台で大きな差はみられません。いずれの種類暴力についても、女性の方が被害経験者の割合が高くなっています。

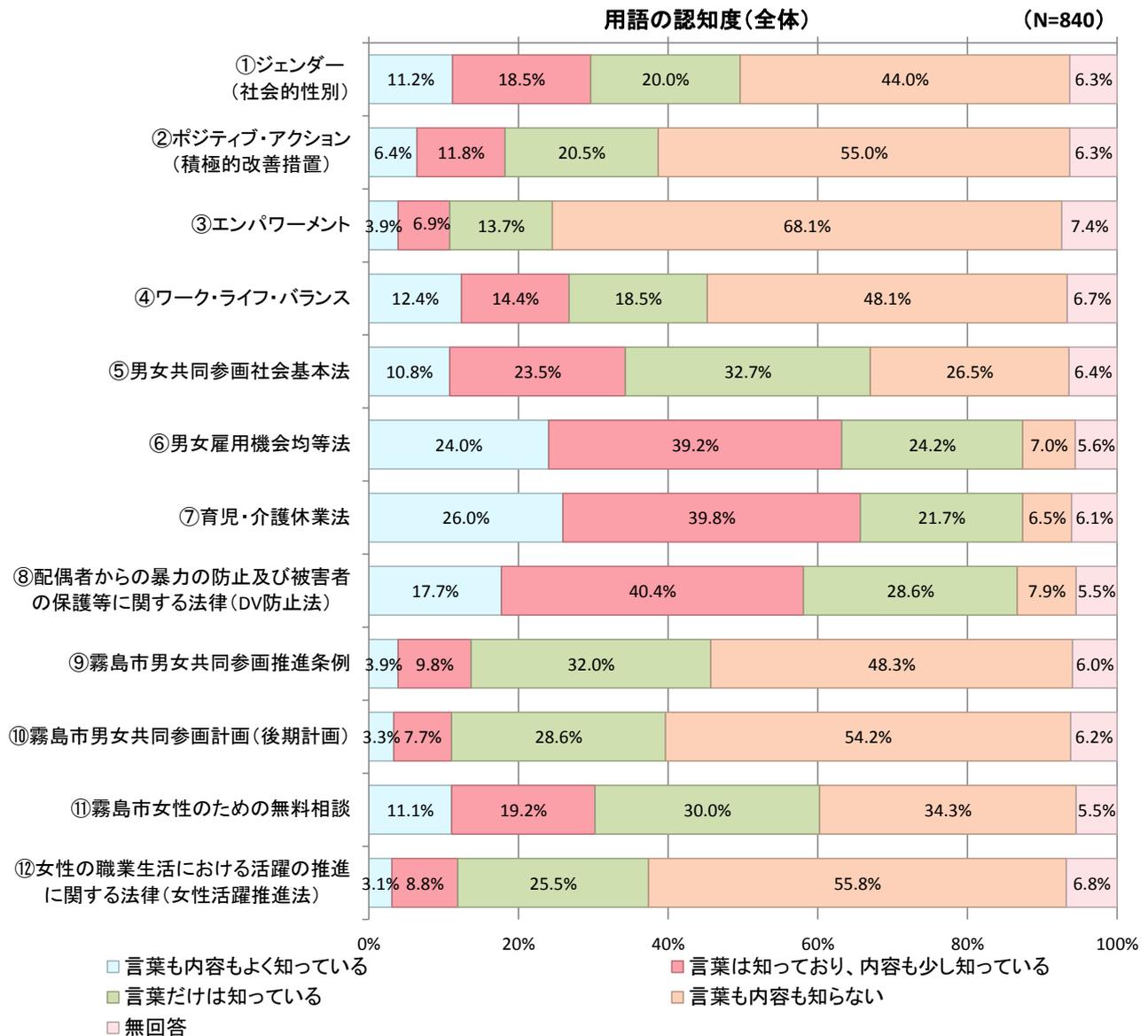
10歳代から20歳代における交際相手からの被害経験(暴力の種類別・性別)



## ◎男女共同参画に関する用語について

### ■ 用語の認知度

男女共同参画に関する用語については、「⑦育児・介護休業法」「⑥男女雇用機会均等法」「⑧配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）」の認知度が特に高くなっています。



## ◎行政について

### ■ 男女共同参画を推進する上で霧島市に期待すること

#### ～仕事と家庭が両立できる就労環境づくりをすすめることを期待している～

男女共同参画を推進するうえで霧島市に期待することについてみると、全体では「職場における労働時間短縮や育児・介護休業制度の普及促進など、仕事と家庭が両立できる就労環境づくりを進める」(40.5%)の割合が最も高く、次いで「子どもの頃から、男女の平等や相互の理解・協力についての学習を充実させる」(40.1%)、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」(39.9%)となっています。

#### 男女共同参画を推進する上で霧島市に期待すること(全体)

